

朝ぼらけ羽ごろも白しろの天あめの子が

乱舞するなり八重桜ちる

歌 意

夜がしらじらと明けてくる頃、薄紅色の八重桜が散るさまは、まるで白い羽衣を着た天女が乱舞しているようです。

掲出歌集 『舞姫』明治39（1906）年1月  
初出 「明星」明治38年11月号「新詩社詠草」（晶子27歳）



- ・所在地 羽衣国際大学内（西区浜寺南町1丁89-1）  
南海本線羽衣駅またはJR阪和線東羽衣駅下車  
JR高架沿いに東へ徒歩5分
- ・建 立 昭和61年10月24日 羽衣学園短期大学保護者会
- ・書 杉岡華邨（書家）
- ・連絡先 羽衣国際大学 TEL 072-265-7000

羽衣学園短期大学の新学舎落成を記念して、卒業生たちの華麗なる活躍と多幸を願って建立されたものである。

歌は同大学国文学科の明石利代教授（当時）の助言により、歌中に羽衣の語があって、うら若い乙女の活躍のイメージと重なるこの歌が選ばれた。

※歌碑のもととなる“書”は同大学図書館に額装されている。

なお、正門の開いているときは、正門内受付で訪問者バッジをもらってから見学を。日曜、祝日などはあらかじめ大学に連絡をいれておくこと。

（同短大は平成14年度から羽衣国際大学）